

## 第2回 防府市防災ネットワーク構築検討委員会

### 議事録等

#### ■開催日時・場所

令和6年2月8日(木) 10時00分から11時15分まで

防府市役所4号館3階 第1会議室

#### ■次第

1 開会

2 協議事項

(1)第5次防府市総合計画に掲げる防災ネットワークの充実強化等について

(2)その他

#### ■資料等

・委員名簿

・第5次防府市総合計画(重点プロジェクト)～防災ネットワーク～

・佐波川右岸広域防災広場

・文化福社会館跡地防災広場

・県立総合医療センター機能強化基本構想の策定について

#### ■出席者名簿(敬称略)

【 区 分 】	【 所属団体名 】	【 氏 名 】
会 長	国立大学法人山口大学	山本 晴彦
副会長	山口県防府土木建築事務所	城一 俊幸
委 員	地方独立行政法人山口県立病院機構	中本 一豊
〃	社会福祉法人防府市社会福祉協議会	伊豆 利裕
〃	小野地域自治会連合会自主防災会	山崎 博英
〃	防府市防災士等連絡協議会	宮本 博史
〃	右田小学校 PTA 会長	上田 育子
〃	牟礼中学校 PTA 会長	横田 さおり

## ■会議録

### 1 開会

---

#### 会議の公開について

- ・ 本日の会議は公開とする。  
⇒異議なし

#### 会議の記録について

- ・ 会議で出された意見等の概要は、会議終了後、事務局で整理したものを各委員に確認後に、会議の要旨を市ホームページで公表する。  
⇒異議なし

#### 会長挨拶

##### 【山本会長】

能登半島地震では、被災地までどのようにたどり着くかという課題があった。地域の防災を考えていくなかで、どのような災害が起こるのか、また、起こってきたかということ振り返りながら考えていく必要がある。

特に、防府市では、2009年7月の土石流災害、それ以前にも洪水災害が起こっている。大規模災害が起こった場合にするかを考えると、防災拠点の整備や防災ネットワークを構築していくことが一番大事である。

### 2 協議事項

---

#### (1) 第5次防府市総合計画に掲げる防災ネットワークの充実強化等について

- ・ 議事内容について事務局より資料1～3を用いて説明。
- ・ 県健康福祉部医務保険課より、資料4を用いて概要を説明。

#### 委員の意見

##### 【 A 委員 】

資料2(佐波川右岸広域防災広場)について、市の広域防災広場と県立総合医療センター(以下、「医療センター」という。)に沿った形で整備する県道(アクセス道路)については、現在の医療センターから広域防災広場に向かって随時整備を進めていく予定であり、医療センターが完成する頃には、全線開通できるスケジュールを考えている。そのため、県、市と連携を図りながら、また、地元の協力を得ながら、着実に整備していきたいと考えている。

##### 【 B 委員 】

資料1(防災ネットワーク)では、防災の拠点といわれる施設がいくつかあるが、この拠点

となる場所を結び付けて総合的に関連づけをしながら防災対応をされることは分かった。

提案であるが、医療センターと連携する佐波川右岸広域防災広場については、防府市にとって非常に重要な場所であるので、防災拠点として、高齢者や子どもなど市民に分かりやすい名称にする必要があると考えるので、検討をお願いしたい。

#### 【 C 委員 】

名称を聞いて場所が分かりやすいことも大事だと思う。その点では、文化福祉会館跡地防災広場の名称についても検討をお願いしたい。三友サルビアホールと一体的に活用する広場なので、サルビアホールのすぐ北側の広場と分かる名称がいいのではないかな。

また、資料2の臨時ヘリポート用地について、医療センターでも屋上などにヘリポートを設置すると思うが、防災広場でのヘリポートの活用について説明をお願いします。

#### 【 D 委員 】

先に補足すると、県の基本構想では、荒天時や発災時等を想定して、医療センターの屋上と地上にそれぞれヘリポートを設置することとなっている。屋上に着陸することができないような強風の場合は、医療センター敷地内に着陸することになる。防災広場はあくまでも臨時ヘリポートという位置付けになると思われる。

医療センターとしては、広域防災広場に臨時ヘリポートを設置していただくことはありがたい。平成21年の防府市での災害の際には、6機のヘリが救出救助等で活躍した。医療センターや広域防災広場にヘリポートを持っていれば、災害時に少なくとも3カ所は使用できるので、様々な面で役に立つと思う。

#### 【 事務局 】

防災広場のヘリポートについては、大規模災害時の医療センターとの連携を考えて、医療センターに近い場所に、あくまで臨時的なヘリポートとして示している。

本市の地域防災計画でも小・中学校のグラウンドなどを臨時ヘリポートとして規定している。臨時なので、必ずしもHのマークを付けなくても着陸できる。約1haあるので、県の消防防災ヘリや自衛隊の大型ヘリなども着陸できるように、臨時のヘリポート用地として確保している。

防災広場の名称については、御意見を参考にしながら、事務局で検討していきたい。

#### 【 E 委員 】

資料2について、事務局が示す案1がいいと思う。資料3について、三友サルビアホールは避難所に指定されるなど防災の拠点ともなる。また、ボランティアセンター運用時には多目的室も使う、サルビアホールの控室等も使うということで一体的な活用が図られるので、案1がいいと思う。

資料1については、消防署東出張所が現在整備中と説明があったが、牟礼公民館が隣接地に整備されると聞いている。能登半島地震でも、報道の中でトイレの問題などいろいろと出ている。資料2、3もそれぞれ非常用便槽マンホールトイレが整備されることになっているので、公民館についても、マンホールトイレの整備等についても、検討をお願いします。

【山本会長】

マンホールトイレについて御意見をいただいたが、トイレの問題は重要である。また、文化福祉会館跡地防災広場の駐車場は複雑な導線であるので、災害時など車が集中的に来た場合に対応できるようなイン・アウトの導線を検討いただきたい。

【事務局】

文化福祉会館跡地防災広場については、西側駐車場と南側駐車場の間には、三友サルビアホール施設があるため一体的な活用が難しいが、西側、東側駐車場の整備に加え、北側アスファルト舗装も含めて、使い勝手のよい導線を検討していきたい。

【F委員】

資料2の応急仮設住宅について、どの程度建つ構想か。また、高齢者や地域の方が散歩できるような園路などを設けられる予定はあるのか。

【事務局】

応急仮設住宅は、敷地面積を戸当たり100㎡とすると、6haであれば約600戸と想定している。また、園路について、散歩などは健康維持に有効だと考えるので前向きに検討していきたい。

【G委員】

要望になるが、事務局からの資料1の説明でふれられた華城小学校周辺に整備される「こども家庭センター」について。能登半島地震のニュースや新聞などで、女性や妊産婦、乳幼児向けの備蓄がなかなか進んでいないとあったので、このエリアでは、そうした備蓄が特に必要だと考えるのでよろしく願います。

【事務局】

女性や妊産婦、乳幼児向けの備蓄は大変必要なものと考えているので、その方々に配慮した備蓄の充実を図っていきたい。

【山本会長】

それぞれの自治会等でも防災倉庫を置いて備蓄しているが、浸水等を考慮して、設置場所とする必要がある。また、備蓄品をどのような形で上手にローテーションをさせていくかを考えていく必要がある。家庭での備蓄は、それぞれの賞味期限を知って、ローリングストックするなど上手に活用していただきたい。女性、妊産婦、乳幼児向けの備品は、とても大事だと思っている。

本日は、委員の方から意見をいただいたが、資料2、3のレイアウトの位置について、両案とも案1で、ご理解いただいたという事でよろしいか。

【 全委員 】

了承

【 山本会長 】

オブザーバーからも意見をいただきたい。

【 県健康福祉部(オブザーバー) 】

広域防災広場について、病院計画地側に、トリアージや DMAT、臨時ヘリポートなどの医療ゾーンの整備を構想されており、県として、基本構想に掲げている、「総合医療センターとの緊密な連携により 災害対応力を包括的に強化する」といった観点から大変有意義なプランと受け止めている。

現在、県では、基本計画の策定に向けた検討を進めており、その中で、本日御審議された内容を参考に、市と協議しながら広域防災広場との連携に向けて検討し、計画に反映してまいりたいと考える。

【 D 委員 】

今後整備する医療センターは、これから先の約 50 年間、移転場所での医療の提供が可能となるよう、しっかりと県や市等と連携しながら進めてまいりたい。

【 B 委員 】

防災広場にどのような機能を持たせるかなど、しっかりと検討していく必要があるが、市民にとっては、平時にはどのように使うのかも気になると思う。資料2、3のレイアウトでは、土の舗装、アスファルト舗装の配置が検討されているが、土の舗装について今の段階でどのように考えているのか。

【 事務局 】

災害時には、土の部分も含めて全ての敷地を使う。平常時には、例えば、現在の文化福祉会館にはグラウンドがあり、子どもが遊んだりしている。そういった機能も、地域の中で必要でないかと考えており、資料には土の舗装と書いているが、どういう形で整備するのがいいのか検討し、景観にも配慮して整備をしていきたい。

【 山本会長 】

能登半島地震では、下水管が損傷して、老朽配管も多数あり、復旧に苦労していると聞く。地中に埋まっている配管を地震で損傷した場合、これをどうするかという問題がある。

防府市も扇状地の平野なので、大規模な地震が起これば液状化が起こる可能性がある。

今会議では、事務局が示されたレイアウト案や防災広場の名称について、御意見をいただいた。事務局でしっかりと検討されて、反映されるようお願いする。

それでは、事務局に返す。

【 事務局 】

本日は貴重な御意見をいただき、誠に感謝申し上げます。

事務局が説明したレイアウト案については、賛同いただきありがとうございました。

今後はそれぞれの広場の整備に向け、県や地元の皆様と連携して詳細を詰めて、具体的に進めてまいりたい。広場の名称についても検討する。その中で、御意見をいただく必要がある場合には、お願いします。

委員の皆様には、お忙しいなか御協力いただき感謝申し上げます。